

授業科目	LD等、重度・重複障がい者の心理と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症など、通常学級に在籍しているが配慮の必要な児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。</p> <p>あわせて重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。</p> <p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法を具体的に学び、それぞれのケースではどのように考えていったよいかを考えていきます。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒では、感覚運動的な教育支援を中心に具体的な方法を検討していきます。</p>			
到達目標	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	オリエンテーション	ケース研究		
第 2回	LDについて 1 その特徴	ケース研究		
第 3回	LDについて 2 アセスメントについて	ケース研究		
第 4回	LDについて 3 アセスメントを生かした教育支援	ケース研究		
第 5回	ADHDについて 1 その特徴	中間レポート作成		
第 6回	ADHDについて 2 行動変容のための支援 ABA	ケース研究		
第 7回	ADHDについて 3 行動変容のための支援 ABAの実施	ケース研究		
第 8回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 1 その特徴	ケース研究		
第 9回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 2 ソーシャルスキルトレーニングについて	ケース研究		
第10回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 3 サバイバルトレーニングについて	中間レポート作成		
第11回	発達障がいの総合的支援について その1	ケース研究		
第12回	発達障がいの総合的支援について その2	ケース研究		
第13回	重度・重複障がいについて 1 その特徴	ケース研究		
第14回	重度・重複障がいについて 2 教育的支援	ケース研究		
第15回	保護者への教育的支援について	最終レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 各30% 最終レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も見ます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻は厳禁、積極的に発言参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12:30~13:00	メールアドレス		

授業科目	学習・言語心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	榎 祐子	単位	2
授業の目的と概要	「学習」の領域では、生得的な基盤や過去の体験、さらに現在の環境といった様々な要因のもとで、人間の学習行動がどのように獲得されるのかという問題について理解を深める。我々が外界からの情報や刺激を取り入れたり、様々な学習を通して体験したことを、どのように知識や経験として蓄積しているのか学ぶことを目的とする。「言語」の領域では、人間が生まれてからどのように外界を理解し、他者とのコミュニケーションを図ることができるようになるのか、そのプロセスについて理解を深める。		
到達目標	①日常生活における学習行動を条件づけのプロセスを使い説明することができる ②経験を通じて、行動が変化する過程について説明することができる ③言語の習得過程や言語に関連する障害について説明することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心(3)-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス：授業の概要と受講にあたっての留意点の説明	学習・言語心理学のイントロダクションの復習	
第2回	学習心理学とは：学習とは、研究の方法	学習の定義についての復習	
第3回	古典的条件づけ：古典的条件づけの獲得、消去	古典的条件づけの生起のプロセスについての復習	
第4回	オペラント条件づけ①：オペラント条件づけの定義と分類	オペラント条件づけの生起のプロセスについての復習	
第5回	オペラント条件づけ②：オペラント条件づけの基礎、強化	オペラント条件づけの強化のプロセスについての復習	
第6回	社会的学習：観察学習	観察学習についての復習	
第7回	問題解決と推理	問題解決と推理の具体的例を考える	
第8回	まとめ① 学習	学習心理学についての復習	
第9回	言語の獲得について：人間と言語の関係	人間と言語の関係についての復習	
第10回	言語獲得の過程① 喃語から意味獲得	言語獲得の初期のプロセスの復習	
第11回	言語獲得の過程② 文法獲得	言語獲得に関係する特性の復習	
第12回	言語理解：言語理解のプロセス、第2言語習得	言語理解のプロセスについての復習	
第13回	言語と思考	概念と言語についての復習	
第14回	言語と障がい	言語に関連した障がいについての復習	
第15回	まとめ② 言語	言語心理学についての復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 学習と言語についてテーマを設定しショートレポートにまとめる 30% まとめ①②のまとめレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。 簡単な実験を実施することがありますので、遅刻をしないよう留意してください。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	松尾太加志 『認知と思考の心理学』 サイエンス社 山内光哉・春木豊 『グラフィック学習心理学』 サイエンス社		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	感情・人格心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、日常生活において話題として取り上げられることが多い「感情」や「人格」についての心理学的知見や、研究成果に関する理解を深め、感情心理学、人格心理学に関する基本的な理論と応用的な知識について習得することを目的とする。具体的には、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について理解する。さらに、人格の概念、人格の形成過程、人格の理論、人格の障害について理解する。また、感情や人格を測定する方法についても学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 主要な感情理論、人格理論について説明できる 2 感情が行動に及ぼす影響について説明できる 3 人格の概念について説明できる 4 人格の形成過程について説明できる 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第 1回	オリエンテーション、		配布プリント①の復讐	
第 2回	心の深層へのアプローチ		配付プリント②の復習	
第 3回	感情の理論		配布プリント③の復習	
第 4回	愛着理論		配付プリント④の復習	
第 5回	情動コミュニケーション		配付プリント⑤の復習	
第 6回	人の人格形成にかかわる要因		プリント⑥の復習	
第 7回	人格の類型論・特性論		配付プリント⑦の復習	
第 8回	人格における男女差		配付プリント⑧の復習	
第 9回	ストレスと感情の疾患		配布プリント⑨の復習	
第10回	ストレスとパーソナリティ変容		配付プリント⑩の前半の復習	
第11回	ストレス障害		配付プリント⑩の後半の復習	
第12回	パーソナリティの正常と異常		配付プリント⑪の前半の復習	
第13回	アイデンティティの確立と病理		配付プリント⑪の後半の復習	
第14回	感情・人格の測定方法		配布プリント⑫の復習	
第15回	全体のまとめ		全体のまとめレポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100% 持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	人の迷惑にならないように、授業中は私語を慎んでください。			
教科書	特になし 毎回資料を配布します			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	月曜 昼休み	メールアドレス		

授業科目	健康・医療心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、発達支援・発達臨床の具体的な援助方法や実践的なアプローチの一つとして、健康心理カウンセリングの基本について理解することを授業の目的としている。 人が病気になるたり、健康でいることができたりすることについて、身体的側面からだけ捉えるのではなく、心理・社会的側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の基本的考え方やアプローチ法を学習する。その際、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気になる健康を維持し続ける人間の「強さ」やポジティブな側面に注目をする。WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について解説したあと、ストレスと健康の関係、健康行動と疾病予防の関係について考察を深める。おそらく、授業終了時には、健康と病気についての、今まで持っていた考え方が、大きく変わることになっているのではないかと考える。			
到達目標	①WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について説明できる。 ②ストレスと健康の関係について説明することができる。 ③健康リスク要因としてのパーソナリティ特性について、例を挙げて説明できる。 ④健康心理学が果たすヘルスケアシステムにおける役割を説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：臨床心理学概論、カウンセリング概論 この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 健康とウェルビーイング 健康心理学とは何か、健康の定義、医療制度のモデルとその限界、生物心理社会モデル		WHOの健康の定義と、それがその後どのように再検討されてきたかを調べる。		
第2回 健康な社会づくり 現代社会の健康観、学校・社会・地域の健康づくり活動、健康づくりのための政策・法律		TVや新聞、雑誌等の健康と関連した広告、出版物等について調べる		
第3回 現代社会とストレス ストレスの仕組み、ストレス感じ方と個人差、効果的なストレス対処法		現代社会にあふれるストレスについて、どのようなものがあるか調べる。		
第4回 健康な食生活 日本人の食生活の現状、食行動のメカニズム、食行動の発達と病理		自分の一週間の食生活について記録する		
第5回 運動と休養による健康づくり 日本における身体活動・運動と睡眠の現状と課題 等		身近な地域で行われているスポーツイベントについて調べ、一覧表を作る		
第6回 健康リスクへのアプローチ 健康リスクの考え方、発達段階と健康リスク、健康リスクへの対応		自分自身が行っている健康法と、その科学的根拠について調べる		
第7回 健康リスク要因とパーソナリティ 健康リスク要因としてのパーソナリティ、心疾患やがんとパーソナリティ		授業で実施したパーソナリティテストの分析・解釈を報告書にまとめる		
第8回 健康リスク要因と行動 健康を阻害する行動リスク要因、喫煙、依存・嗜癖、事故、リスク認知		自分が行っている健康阻害行動のチェックとリストアップ		
第9回 女性と健康 女性と健康と健康問題、母性に関する健康問題		女性の喫煙・飲酒に関する情報を収集し分析する		
第10回 高齢者と健康 高齢者の現状と健康概念、高齢者の自立と社会参加、スピリチュアルヘルス		高齢者の生きがいづくりと健康について考え方をまとめる		
第11回 災害時の被災者の心理と支援 災害時の心理と支援の考え方、PTSD、被災者の心理、心のケア		被災時の心のケアについての活動を調べまとめる		
第12回 患者の心理と病気対処行動 病気の知覚とその対処、病気行動の自己調節過程、美容器体験に関する心理的要因、病気体験の克服		自分の「病気体験」「病気行動」について振り返り整理する		
第13回 健康心理学の臨床的展開 肥満と糖尿病・心臓疾患患者・がん患者等の治療における健康心理学的介入		「がくの告知」についてのあり方について考えをまとめる		
第14回 医療現場でのコミュニケーション 医療コミュニケーション、よりよいコミュニケーションを目指して		授業で観たDVDをもとに、医療コミュニケーションの問題点を考え整理する		
第15回 ヘルスケアシステムの現状と将来の展望 日本のヘルスケアシステムの歴史、ヘルスケアシステムの現状と問題点、今後の課題		講義をとおして学んだことのポイントを整理する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 指定したテーマについて、2000文字程度の期末レポートの提出を求める。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業で質問、発言等の積極的態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 授業内容と関連したプリントを毎回配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	島井哲志・長田久雄・小玉正博(編) 『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』 有斐閣アルマud			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	公認心理師の職責【講義】	開講時期	後期
担当教員	森田 理香・針塚 進	単位	2
授業の目的と概要	本科目では心理専門職の国家資格である公認心理師を目指す人に必要な知識や価値観について取り扱う。具体的には、公認心理師にとって最も重要な法案である公認心理師法を通して公認心理師の役割や、公認心理師の法的義務及び倫理及び情報の適切な取り扱いについて理解すること、さらに医療保健、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務や他職種連携及び地域連携について理解することである。これらの学びを通して、国民の心の健康の保持・増進に寄与できる公認心理師になるための基礎的な知識を身につけることを授業の目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公認心理師の役割について述べる事が出来る 2. 公認心理師の法的義務及び倫理について説明する事が出来る 3. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保について示す事が出来る 4. 情報の適切な取り扱いについて説明する事が出来る 5. 保健医療、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務について説明する事が出来る 6. 自己課題発見・解決能力を身につけている 7. 生涯学習への準備が出来ている 8. 他職種連携及び地域連携について説明する事が出来る 		
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<p>心 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (森田)	公認心理師法を調べ、通読する	
第2回	公認心理師の役割 (針塚)	第1章の予習	
第3回	公認心理師の法的義務 (針塚)	第2章の予習	
第4回	公認心理師の倫理 (針塚)	第3章の予習	
第5回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保 (針塚)	第4章の予習	
第6回	情報の適切な取り扱いについて (針塚)	第5章の予習	
第7回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)	第6章の予習	
第8回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)	第7章の予習	
第9回	教育分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)	第8章の予習	
第10回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務 (森田)	第9章の予習	
第11回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務 (森田)	第10章の予習	
第12回	支援者としての自己課題発見・解決能力 (森田)	第11章の予習	
第13回	生涯学習への準備 (森田)	第12章の予習	
第14回	多職種連携と地域連携 (森田)	第13章の予習	
第15回	全体のまとめ (森田)	授業で学んだことを振り返り、復習する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	毎回、授業の最初に予習テストを行います。テストの合計点で評価します。		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	公認心理師受験資格における必修科目になります。遅刻、無断欠席厳禁。欠席の場合は必ず事前に理由を含めて連絡すること。		
教科書	野島一彦、繁樹算男監修『公認心理師の基礎と実践 公認心理師の職責』遠見書房		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	肢体不自由教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂		単位	2
授業の目的と概要	近年、障害の重複化、多様化を受けて一人一人のニーズに応じた教育的配慮が強く求められている。そのような社会的な情勢を視野に入れ、肢体不自由児・者を始めとする知的障害者の教育について基礎的・基本的な知識を身に付けることを目的とする。肢体・知的障害者の医学的・心理的特徴を理解するとともに、教育課程の編成や指導、支援の工夫について考えを深めていくことができるようにする。また、自立活動に向け、専門機関との連携や情報機器の活用等も考慮した個別の支援計画や個別的教育指導計画の作成を目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児・者、知的障害者の歴史的過程と現状・課題を説明することができる。 ・肢体不自由児・者、知的障害者の基本原理や教育課程について説明することができる。 ・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について考えを述べるができる。 ・肢体不自由児・者教育における自立活動や他機関との関係を説明することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 「肢体不自由」の用語の概念について	復習	「肢体不自由」についてまとめ	
第2回	我が国における肢体不自由教育の発足と発展の歴史について	予習 復習	配布資料を読んでおく 肢体不自由教育の歴史をまとめ	
第3回	肢体不自由児・者が学ぶ様々な教育の場について	予習 復習	配布資料を読んでおく 教育の場についてまとめる	
第4回	肢体不自由児・者の医学的側面（骨、筋）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 運動発達の仕組みをまとめる	
第5回	肢体不自由児・者の医学的側面（脳性麻痺、二分脊椎）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 脳性疾患についてまとめる	
第6回	肢体不自由児・者の心理学的側面（発達、障害特性）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 心理学的側面についてまとめる	
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 乳幼児期の指導についてまとめ	
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 小学校期の指導についてまとめ	
第9回	肢体不自由者における教育課程・指導法（中学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 中学校期の指導についてまとめ	
第10回	肢体不自由者における教育課程・指導法（高等学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 高等学校期の指導についてまと	
第11回	教科指導（学習上の困難と困難への対応）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 教科指導法についてまとめる	
第12回	重複障害について（指導法）	予習 復習	配布資料を読んでおく 重複障害についてまとめる	
第13回	動作法について（体と心、身体の動きを通じた指導法）	予習 復習	配布資料を読んでおく 動作法についてまとめる	
第14回	肢体不自由児・者の自立活動の必要性について（指導計画作成）	予習 復習	配布資料を読んでおく 個別的教育指導計画を作成する	
第15回	専門機関との連携、保護者の支援について	予習 復習	支援についてグループ討議 支援のありかたについてまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験			
レポート	20％ ミニレポート1回			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 個別的教育指導計画			
受講態度他	10％ グループ討議の様子			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』海文堂出版			
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	社会・集団・家族心理学（家族心理学）【講義】		開講時期	前期
担当教員	浜田 登美子		単位	2
授業の目的と概要	現代では、家族を取り巻く社会的状況が刻々と変化しています。その影響を受けて、家族形態や家族関係の変容、家族機能の低下が指摘されています。しかし、その一方で子どもの発達という側面からは、これまで以上に家族の重要性が強調されています。そのような現代の家族を理解しその支援を考えるとき、家族システム論が役に立ちます。この授業の目的は、家族システム論を用いて家族を理解することです。そのことにより、児童虐待を含む家族内暴力や不登校など、現代の家族が抱える諸問題の原因や背景をより深く考察することができます。また、それらの問題についての家族臨床的支援について基礎的知識を得ることも目的としています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて文章で説明することができる。 2. 家族は、家族を取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを、具体的な例を挙げて述べることができる。 3. 家族療法の特徴と代表的な技法について簡潔な文章で記述することができる。 4. 現代の家族が抱える問題について説明することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 家族とは何か		予習：教科書第1章 pp. 1-16		
第2回 家族の健康とは		予習：教科書第2章 pp. 17-26		
第3回 家族の発達①：家族ライフサイクルと発達課題		予習：教科書第2章 pp. 26-34		
第4回 家族の発達②：夫婦の発達とは		予習：教科書第3、4章 pp. 35-72		
第5回 家族の発達③：子どもが育つ場としての家族		予習：教科書第5章 pp. 73-77		
第6回 家族の発達④：子育てに関する神話と誤った思い込み		予習：教科書第5章 pp. 78-82		
第7回 家族と社会の関わりを児童虐待の発生要因から考える		予習：教科書第5章 pp. 82-91		
第8回 変動する社会の中の家族：システム論によって家族を理解する		予習：教科書第6章 pp. 93-111		
第9回 家族システム論から家族関係や家族の問題を理解する		予習：教科書第7章 pp. 113-126		
第10回 多世代伝達過程から家族を理解する		予習：教科書第7章 pp. 126-129		
第11回 家族への臨床的アプローチ、家族療法のDVD視聴		予習：教科書第8、9章 pp. 131-149		
第12回 現代家族の諸問題①：不登校・引きこもりの子どもがいる家族への臨床的アプローチ		予習：教科書第9章 pp. 158-160		
第13回 現代家族の諸問題②：家庭における4つの暴力		予習：教科書第9章 pp. 150-156		
第14回 現代家族の諸問題③：高齢者虐待		予習：教科書第9章 pp. 156-158		
第15回 総括と質疑		復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート 40%			
小テスト等	ミニテスト 2回 30% (15%×2)			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 毎回のショートライティング（学習内容の確認／意見）2%×15 フォーラムへの質問のうち、受講生の学びに貢献するものは評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず教科書の該当箇所を読んで受講してください。			
教科書	平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義著『家族の心理 ― 家族への理解を深めるために 第2版』サイエンス社			
指定図書	使用しない			
参考図書	平木典子『家族との心理臨床』垣内出版			
オフィスアワー	金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は、授業内容に関してはフォーラムで、それ以外についてはメールで。	メールアドレス		

授業科目	女性心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったということができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることとなります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1. 女性の生き方や女性特有の心理臨床の問題に影響を与えている文化・社会的要因、心理的要因、生物学的要因について説明することができる。</p> <p>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べるができる。</p> <p>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べるができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：女性の発達とライフサイクル	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第2回	女性らしくとは	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第3回	思春期における心理臨床：女性と食行動	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第4回	女性のライフコースとキャリア発達	厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を調べる	
第5回	女性のキャリア発達とその関連要因	自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第6回	現代の結婚事情	レポートを作成する	
第7回	親となるプロセス①：妊娠・出産に関わる意思決定	身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第8回	親となるプロセス②：現代の子育て事情	子育て支援の地域資源について調べる	
第9回	ライフコースの調整とケア役割	どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回	ケア・テイカーとしての女性	家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回	中年期女性の選択	アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回	支え、支えられる中高年期	コンボイについて調べる	
第13回	うつと女性：なぜ性差があるのか	講義内容の復習	
第14回	ジェンダーの問題としてDVを考える	居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回	国際比較から日本の女性を考える	ジェンダーギャップ指数について調べる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 中間レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いたレポート 1500字程度 30% 学期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回のショートライティング（学習内容の確認／意見） フォーラムへの質問のうち、受講者の学びに貢献する良い質問を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなく、自分が気づいていなかったジェンダーの問題かもしれません。漠然と聞くのではなく、将来の自分や身近な女性をイメージし、自己関与しながら受講してください。授業中のスマホ操作は厳禁です。		
教科書	毎回資料を配布する		
指定図書	使用しない		
参考図書	肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ（著）『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯書書房 園田雅代・平木典子・下山晴彦（著）『女性の発達臨床心理学』金剛出版		
オフィスアワー	金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は授業内容に関してはフォーラムで、それ以外はメールにて。	メールアドレス	

授業科目	障害者・障害児心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	障害者・障害児の心理的特徴を理解し、この後のこれらの人の支援を含めた学習の基礎を身につけることを目的とします。障害は多様で、それぞれの障害によって発達、心理的特徴があり、それを理解した上で接したり、支援することが大切です。さらに障害のある人が自立していくために周囲が小さいころからどのようなことについて配慮していくのか知っておくことが大切です。			
到達目標	それぞれの障害における発達の特徴、心理的特徴を説明できる。 障害者の自立に向けて周囲の配慮事項を説明できる。 障害者の家族への支援の大切さが理解できている。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション	ショートレポート		
第2回	障害の理解とその方法	ショートレポート		
第3回	知的障害の理解	ショートレポート		
第4回	自閉スペクトル症 (ASD) の理解 (1)	ショートレポート		
第5回	自閉スペクトル症 (ASD) の理解 (2)	ショートレポート		
第6回	注意欠如/多動症 (ADHD) の理解	ショートレポート		
第7回	限局的学習症 (SLD) の理解	ショートレポート		
第8回	言葉の障害の理解	ショートレポート		
第9回	視覚障害の理解	ショートレポート		
第10回	聴覚障害の理解	ショートレポート		
第11回	肢体不自由の理解	ショートレポート		
第12回	重度・重複障害の理解	ショートレポート		
第13回	精神障害の理解1 (統合失調症、双極性障害、その他)	ショートレポート		
第14回	障精神障害の理解2 (適応障害、摂食障害、人格障害、その他)	ショートレポート		
第15回	障害者の福祉 (制度、関係機関) と心理職の役割	最終レポート		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業の終わりにショートレポート30% 最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	参考にします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻3回は欠席1回としてみなします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	心理演習 I【演習】	開講時期	後期
担当教員	大鷲(香)・榊(祐)・森田(理)	単位	2
授業の目的と概要	心理に関する支援を要する者に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識、及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイ)等を通して、心理師として人と関わる際にどのような視点や態度、手続き等が必要かについて学ぶ。		
到達目標	①心理的支援を要する者に対するカウンセリングの基本的な方法を修得する ②実践場面を想定した心理的支援について、提案することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	カウンセリングの基本的知識と技能：コミュニケーション	コミュニケーションの特徴と技法についての復習	
第2回	カウンセリングの基本的知識と技能：コミュニケーション技術	自己理解についてのレポート作成	
第3回	カウンセリングの基本的知識と技能：聞く体験	聴く体験についてのレポート作成	
第4回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング学習①	心理面接の注意点についてのレポート作成	
第5回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング学習②	心理面接で留意することについてのレポート作成	
第6回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング実習①	カウンセリングを振り返ってレポート作成	
第7回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング実習②	カウンセリングを振り返ってレポート作成	
第8回	ハンディキャップ体験①	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第9回	ハンディキャップ体験②	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第10回	グループアプローチ①	グループアプローチの方法についての復習	
第11回	グループアプローチ②	グループ体験についての振り返り	
第12回	箱庭療法①	箱庭療法の特徴についての復習	
第13回	箱庭療法②	箱庭療法の分析についての復習	
第14回	リラクゼーション①	リラクゼーションの方法についての復習	
第15回	リラクゼーション②	リラクゼーション体験についての振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100% 毎回、授業終了後に授業内容についてのレポート課題を提示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻や欠席のないよう努めること。無断欠席は認めません。 体験学習には積極的に参加すること。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	心理演習Ⅱ【演習】	開講時期	前期
担当教員	大轟（香）・森田（理）・日高（崇）	単位	2
授業の目的と概要	心理に関する支援を要する者に対する心理検査、心理面接、地域支援等についての知識及び技能を修得する。また、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携等について事例検討を通して心理的知識や技能を修得する。また、公認心理師としての職業倫理及び法的義務についても理解を深める。 この授業は15人以下のグループにつき1名以上の教員による指導が行われる。		
到達目標	①心理に関する支援を要する者に対する心理検査、地域支援についての知識及び技能を修得する ②心理的支援を要する者等を理解し、ニーズを把握したうえで、支援計画を作成できる ③心理的支援におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携等について説明することが出来る ④公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心（3）-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には心理相談・特別支援教育としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション	レポート	
第2回	心理アセスメント① 発達・知能検査	レポート	
第3回	心理アセスメント② 人格検査（質問紙法）	レポート	
第4回	心理アセスメント③ 人格検査（投射法）	レポート	
第5回	地域支援	レポート	
第6回	チームアプローチ	レポート	
第7回	病院での公認心理師の仕事	レポート	
第8回	公認心理師の職業倫理・法的義務	レポート	
第9回	アセスメント、見立てと方針（保健医療分野、産業・労働分野）	レポート	
第10回	アセスメント、見立てと方針（福祉分野）	レポート	
第11回	アセスメント、見立てと方針（教育分野）	レポート	
第12回	多職種連携と地域連携（保健医療分野、産業・労働分野）	レポート	
第13回	多職種連携と地域連携（福祉分野）	レポート	
第14回	多職種連携と地域連携（教育分野）	レポート	
第15回	まとめ	レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％（毎回、授業毎にレポートを提出）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	受講態度を考慮する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席・遅刻の場合は教員に連絡すること レポートは期日までに提出すること 1～8回までは遠隔授業、9回以降は対面での授業の予定です。筑女ネットを必ず確認してください。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。 それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。		
到達目標	①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る ②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。 ③集団における行動の特徴について説明することが出来る ④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学とは①：心理学の起源、歴史	心理学の歴史についての復習	
第2回	心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域	心理学の領域と成果についての復習	
第3回	発達①：人間の発達段階とは	発達段階の特徴についての復習	
第4回	発達①：発達段階の理論	発達理論の整理と復習	
第5回	発達③：言語の発達	言語の発達についての復習	
第6回	発達④：社会性の発達	家族や友人関係の発達についての復習	
第7回	まとめ①：心理学の歴史、発達	心理学の歴史と発達心理学の整理	
第8回	性格①：人格の特性について	人格のとらえ方の復習	
第9回	性格②：性格の分類	人格理論の復習	
第10回	性格③：性格の形成	性格形成の要因についての復習	
第11回	性格④：集団と性格	集団が正確に与える影響についての復習	
第12回	社会①：集団における個人の行動	集団における性格と行動についての復習	
第13回	社会②：個人と対人関係	個人と社会的知覚についての復習	
第14回	社会③：同調行動について	同調行動の経験についての振り返り	
第15回	まとめ②：人格、社会	人格と社会心理学の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 歴史、発達、人格、社会の領域からそれぞれテーマを設定し、調べてまとめる 30% まとめ①、②のまとめレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	心理学実験【実験】	開講時期	後期
担当教員	榑 祐子・大上 八潮	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動特性を客観的に理解することを目標として、学習、知覚、認知、記憶といった心理学の各分野における基礎的な実験を体験し、心理学における実験レポートの書き方を学ぶ。実験の目的、手続きなどについての講義の後5、6名程度の小グループにわかれ、コンピュータや質問紙等を用いて実験を行なう。結果の処理や実験技法を習得した後、実験レポートを提出することが課題となる。また、最新の心理学の分野でどのような実験が行なわれているか、参加者として体験する機会も設ける予定である。本授業では、心理学研究法の一つである実験という手法を用いて、心理・社会的諸問題における行動特性などを客観的データを収集することで解明することを目的とする。		
到達目標	①心理学における基本的な実験の流れ（目的、方法、結果、考察）を説明することができる ②心理学実験を実験者としてデータを測定する、また被験者として課題を実施することができる ③測定したデータを結果としてまとめ、考察を行い、レポートを作成することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心(3)-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 担当教員の中には心理相談の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学実験とは①：心理学実験の概要	心理学実験のイントロダクションについての復習	
第2回	心理学実験とは②心理学研究法について	様々な心理学研究法の整理	
第3回	心理学実験とは③心理統計法の基礎	心理統計法の基礎についての復習	
第4回	知覚実験1-1 ミュラー・リヤー錯視（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第5回	知覚実験1-2 ミュラー・リヤー錯視（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第6回	知覚実験2-1 触2点閾（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第7回	知覚実験2-2 触2点閾（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第8回	認知実験1 ストループ課題（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第9回	認知実験2 自由再生法（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第10回	実験のまとめ①	レポート作成の復習	
第11回	学習実験1 分散・集中学習（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第12回	学習実験2 鏡映描写（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第13回	行動実験 一対比較法（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第14回	最新の心理学実験の動向 様々な分野における最新の心理学実験を体験	課題（レポート）	
第15回	実験のまとめ②	レポート作成と実験方法についての振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 毎回の実験後にレポートを作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 授業に関するショートレポートを提出		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小グループに分かれて実験を実施、データ測定、レポート作成を行う。実験に参加しなければ、レポートを作成、提出できないため、毎回の出席が非常に重要である。クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退回は慎むこと。		
教科書	使用しない。資料はプリントにて配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	心理学実験指導研究会 『実験とテスト＝心理学の基礎 実習編』 培風館 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 二瓶社		
オフィスアワー	火曜日2限（榑）	メールアドレス	

授業科目	心理実習 I 【実習】	開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大轟(香)・針塚(進)・森田(理)・榊(祐)・日高(崇)	単位	2
授業の目的と概要	本実習は、臨床心理学的な支援を行う現場の実習を中心に行う。福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野に関する施設において各施設の心理臨床的位置づけの差異に注目する一方、これらの現場に通ずる支援の基本的要素にも留意しながら見学を行い、その中で実践的な知識・技能を学ぶ。また、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。 心理実習 I では、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、および産業労働分野についての4領域における施設の見学実習を行う。15人以下のグループに分かれ、それぞれのグループに教員が1名以上担当し、各施設への引率は実習担当教員が行う。		
到達目標	(1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解する (2) 多職種連携及び地域連携について理解する (3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解する		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：心理実習とは	第2回：公認心理師としての職業倫理と法的義務	授業の振り返り	
第3回：福祉分野での心理師の役割、第4回：福祉実習機関・施設の理解	利用者理解と支援内容	福祉施設に関する事前学習（レポート）	
第5回：福祉施設での実習	第6回：福祉施設実習の振り返り	福祉施設の実習に関するレポート	
第7回：福祉分野での多職種連携・地域連携への理解、第8回：教育分野での心理師の役割		授業の振り返り	
第9回：教育実習機関・施設の理解	利用者理解と支援内容	教育施設に関する事前学習（レポート）	
第10回～第13回	教育施設での実習、第14回：教育施設実習の振り返り	教育施設の実習に関するレポート	
第15回：教育分野での多職種連携・地域連携への理解		授業の振り返り	
第16回：司法・犯罪分野での心理師の役割、第17回：司法・犯罪分野における実習機関・施設の理解	利用者理解と支援内容	司法・犯罪分野における機関・施設に関する事前学習（レポート）	
第18回：司法・犯罪分野における施設での実習、第19回：司法・犯罪分野における施設実習の振り返り		司法・犯罪分野における機関・施設の実習に関するレポート	
第20回：司法・犯罪分野での多職種連携・地域連携への理解		授業の振り返り	
第21回：産業・労働分野での心理師の役割、第22回：産業・労働分野における施設の実習	利用者理解と支援内容	産業・労働分野に関する事前学習（レポート）	
第23回：産業・労働分野における施設での実習、第24回：産業・労働分野における施設実習の体験への振り返り		産業・労働分野における実習に関するレポート	
第25回：産業・労働分野での多職種連携・地域連携への理解、第26回：地域の相談室等についての理解		授業の振り返り	
第27回、第28回	臨床心理センターでの実習	学内施設における実習に関するレポート	
第29回、第30回	実習体験のグループ討議（1）施設理解について（2）今後の自分の課題	最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％		
小テスト等	なし		
成果発表	20％（振り返りのディスカッション）		
受講態度他	20％（見学実習時の態度・姿勢）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目を履修するためには実習諸経費の納入が必要になります。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	心理実習Ⅱ【実習】	開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大齋(香)・針塚(進)・榊(祐)・森田(理)・日高(崇)	単位	2
授業の目的と概要	本実習では保健医療の現場である総合病院、精神科病院、精神科クリニック等で5日間の見学実習を行う。心理面接、心理検査などを通して心理状態の観察及び分析ならびに必要な支援についての実践的な知識、技能を学ぶ。また、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。事前・事後指導は15人以下のグループにつき1名以上の実習担当教員による指導が行われる。施設においては実習指導者による指導を受け、実習担当教員による週1回以上の巡回指導を行う。		
到達目標	①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解する ②多職種連携及び地域連携について理解する ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解する		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	保健医療分野での心理師の役割、職業倫理	レポート	
第2回	医療機関での心理師の職務、多職種連携	事前学習書類の作成	
第3回	実習書類について	実習書類の作成	
第4回	実習施設についての理解	実習書類の作成	
第5回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第6回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第7回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第8回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第9回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第10回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第11回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第12回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第13回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成	
第14回	医療機関での実習の振り返り	実習終了レポートの作成	
第15回	保健医療分野での多職種連携・地域連携への理解	実習報告書の作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	100%実習指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目を履修するためには実習諸経費の納入が必要です。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	担当教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	心理的アセスメント I【演習】	開講時期	前期
担当教員	森田 理香	単位	2
授業の目的と概要	心理臨床においては、こころに悩みや課題を抱えた人に対する援助の方針を決定するために、対象となった人を客観的に理解することが求められる。対象者を理解するために行う一連の作業をアセスメントという。本講義ではアセスメントに必要な基本的な姿勢、そして、人を理解するための技法について理解を深める。さらに、子どもの特徴によってどのアセスメント技法が有効であるかについて判断できるようにする。乳幼児・児童を対象とした発達検査や知能検査の理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人を理解する上で必要な基本姿勢について説明することが出来る。 2. アセスメントの方法（観察法、面接法、心理検査法）について、簡潔な文章で説明することが出来る。 3. 発達検査、知能検査の種類、特徴について説明することが出来る。 4. 対象者の特徴やアセスメントの目的に応じて、適切な検査を判断することが出来る。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		授業の進め方、レポート提出の仕方など確認	
第2回 心理アセスメントとは		心理アセスメントとは何かについてレポートにまとめる	
第3回 心理アセスメントにおける倫理		心理アセスメントにおける倫理的配慮についてまとめる	
第4回 アセスメントの方法		アセスメントにはどのような方法があるか、復習する	
第5回 心理アセスメントを行う実践場面		心理臨床におけるアセスメントの位置づけについてまとめる	
第6回 面接法の実際		面接法の方法の違いによるそれぞれの特徴についてまとめる	
第7回 観察法の実際		観察記録の提出	
第8回 心理検査の種類		心理検査にはどのようなものがあるか復習する	
第9回 発達検査：遠城寺式乳幼児発達検査		発達検査についてまとめ	
第10回 発達検査：新版K式発達検査法		発達検査についてまとめ	
第11回 乳幼児健診における心理師の役割		ウェクスラー式知能検査について復習	
第12回 知能検査：ウェクスラー式知能検査の概要		知能検査について復習	
第13回 知能検査：ウェクスラー式知能検査の活用		知能検査について復習	
第14回 田中ビネー知能検査V		知能検査について復習	
第15回 まとめ		この授業に関するまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％ 5～6回、レポート課題を提示します		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし 積極的な態度で受講すること		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでの学習を行いますので、遅刻、欠席に関しては厳しく対応します。主体的、協力的に授業に参加することを求めます。		
教科書	特になし		
指定図書	特になし		
参考図書	松原達哉・楡木満生 共編『臨床心理アセスメント演習』培風館		
オフィスアワー	月曜日休み	メールアドレス	

授業科目	知的障がい・発達援助の技法【講義】		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。</p> <p>さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。 さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。 障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、内容について		
第2回	障がいの種類と特徴	障がいを持ちながら生活をするとはどのようなことか考えをまとめる		
第3回	障がい児者のアセスメントの理論	対象者を理解するアセスメントについての復習		
第4回	障がい児者のアセスメントん実際	対象者を理解するアセスメントについての復習		
第5回	応用行動分析 理論① 行動のとらえ方	復習：“気になる行動”を行動レベルで書き起こす		
第6回	応用行動分析 理論② ターゲットのとらえ方	復習：“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す		
第7回	応用行動分析 理論③ 行動の強化子	復習：“気になる行動”の強化子について復習する		
第8回	応用行動分析 実際① 指導法	復習：応用行動分析を使って、指導案を作成する		
第9回	応用行動分析 実際② 指導案の作成	レポート作成：自分の気になる行動の改善計画案の作成		
第10回	感情のコントロール ①感情の自己理解	自分の感じ方、感情について感じ、言葉にまとめてみる		
第11回	感情のコントロール ②感情の理解と支援	レポート作成：感情のコントロールに関する理解についてのレポート作成		
第12回	リラクセーション	レポート作成：リラクセーション体験についてのレポートをまとめる。		
第13回	TEACCHプログラム	復習：TEACCHプログラムの概要について振り返り		
第14回	構造化① 理論	復習：構造化の種類、具体的な方法について復習する		
第15回	構造化② 実際	レポート作成：日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 授業中に指示します テーマごとに4～5回レポート課題を出します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べることができる。 2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。 3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。 4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <hr/> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要	・ DVD視聴	復習、中間レポートのための図書を探す		
第2回 知的障がいとは		中間レポートのための図書を探す		
第3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント		中間レポートのための図書を読む		
第4回 幼児期の療育、児童期の発達過程と支援		中間レポートのための図書を読む		
第5回 ダウン症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む		
第6回 ウィリアムズ症候群の発達的特徴		中間レポートのための図書を読む		
第7回 自閉スペクトラム症(1) : 自閉スペクトラム症とは、乳幼児期の行動特徴		中間レポートを作成する		
第8回 自閉スペクトラム症(2) : 学童期の行動特徴		中間レポートを作成する		
第9回 自閉スペクトラム症(3) : こだわり行動とパニックへについて		中間レポートを作成する		
第10回 : 就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴		障がい者の就労の現状について情報収集する		
第11回 青年以降の発達過程と支援、強度行動障害		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる		
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる		
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理		これまでの授業内容を振り返り、復習		
第14回 一次性併存障がいと 二次性併存障がい		これまでの授業内容を振り返り、復習する		
第15回 親ときょうだいこととの障がい 一 家族支援について一		知的障がい者の家族支援について調べる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	30% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2枚 図書リストは授業中に配布、筑女ネットにも掲示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 受講態度およびショートライティング			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選り読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。			
教科書	毎回資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する			
オフィスアワー	金曜日昼休み・4講目	メールアドレス		

授業科目	特別支援教育総論【講義】	開講時期	前期
担当教員	酒井 均	単 位	2
授業の目的と概要	<p>特別支援教育に関する基礎的な知識の習得や支援方法についての理解を目指す。学習指導要領に沿った内容をベースに進め、学校現場でも生きる知識を身につける。また、専門機関と連携や個別の指導計画および支援計画の重要性を理解する。</p> <p>特別支援教育の歴史や制度、特別支援学校学習指導要領、教育内容・方法、個別の指導計画および支援計画の作成に関する基礎的な知識について学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念や制度、教育課程を理解することができる。 ・特別支援教育に関する基礎的な知識や教育内容・方法等を理解することができる。 ・個別の指導計画および支援計画の作成に向けた基礎的な知識を習得することができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。この科目は特別支援教育に関する科目です。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1回	オリエンテーション	レポート作成	
第 2回	障害について	レポート作成	
第 3回	知的障害について 特徴と教育	レポート作成	
第 4回	情緒障害について 特徴と教育	レポート作成	
第 5回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育	レポート作成	
第 6回	注意欠如/多動症 (ADHD)について 特徴と教育	レポート作成	
第 7回	限局性学習症 (SLD)について 特徴と教育	レポート作成	
第 8回	発達障害疑似体験	レポート作成	
第 9回	視覚障害について 特徴と教育	レポート作成	
第10回	聴覚障害について 特徴と教育	レポート作成	
第11回	肢体不自由について 特徴と教育	レポート作成	
第12回	言語障害について 特徴と教育	レポート作成	
第13回	重度・重複障害、病弱について 特徴と教育	レポート作成	
第14回	特別支援教育の歴史	レポート作成	
第15回	特別支援教育の現状と課題	レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	ショートレポート30%、最終レポート70%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	受講態度も参考にします		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、授業の最後に課題を出します。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『はじめての特別支援教育 - 教職を目指す大学生のために 改訂版』(柘植 雅義、渡部 匡隆、二宮 信一、納富 恵子著 有斐閣アルマ) 『特別支援学校学習指導要領』(平成29年4月告示 文部科学省)		
オフィスアワー	水曜日 12:30~13:00 生息地8号館 4F	メールアドレス	

授業科目	発達心理学 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	発達心理学では受精から死までの一生にわたる発達について学習する。発達心理学 I では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。 ・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。 ・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。 ・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <hr/> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生涯発達心理学とは	教科書はしがき、0章の復習		
第2回	各時期における発達の特徴・発達の理論	教科書1章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第3回	胎児期の発達	教科書2章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第4回	乳幼児期の認知の発達	教科書3章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第5回	コミュニケーションと人間関係の発達 (1) アタッチメントの発達	教科書4章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第6回	コミュニケーションと人間関係の発達 (2) アタッチメントの個人差	教科書4章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第7回	言語の発達 (1) ことばが芽生えるまで	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第8回	言語の発達 (2) 幼児期の言語発達	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第9回	遊びの発達	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第10回	自己の発達	教科書6章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第11回	感情の発達	教科書7章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第12回	仲間関係・社会性の発達	教科書7章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第13回	児童期の思考の発達 学校での学び	教科書8章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第14回	非定型発達への理解	教科書8章の復習の準備	期末試験への準備	
第15回	まとめワーク	授業全体の復習・まとめワークへの準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	-			
小テスト等	毎回の課題提出30% 復習ワーク(3回)30% まとめワーク40%			
成果発表	-			
受講態度他	毎回の課題、復習ワーク、まとめワークを期日までに提出すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド型で授業を行います。筑女ネットを必ず確認してください。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	前期 月曜日 昼休み・5講目	メールアドレス		

授業科目	発達心理学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、基礎科目のうち人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことを理解するための科目である。思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、喪失を体験する危機の時でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。 3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：発達心理学Ⅰ この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行い			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	思春期の特性、第二次性徴と身体的発達	自分の思春期体験について振り返りまとめる		
第2回	思春期の心理と危機	自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理		
第3回	青年期の特色	「アイデンティティ」とは何かについて調べる		
第4回	青年期の心理特性（1）青年中期	アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴		
第5回	青年期の心理特性（2）青年後期	視聴した映画について内容を分析・整理		
第6回	青年期の発達課題	自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる		
第7回	成人期の特色	成人期に関係した配布資料を読む		
第8回	成人期の心理と中年の危機	中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す		
第9回	成人期の発達課題	親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する		
第10回	老年期の特色	老年期に関連する配布資料を読む		
第11回	老化に伴う身体的変化	老化に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる		
第12回	老年期の心理	高齢者の自殺の実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第13回	老年期の発達課題	高齢者の生き甲斐について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第14回	ターミナル期の心理的課題	ターミナルケアの実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第15回	総括	総括で話した、授業内容のポイントについて復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	40% [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 課題の内容は、①思春期に関するもの ②青年期に関するもの ③成人期に関するもの ④老年期に関するもの の4つである。小レポートは、提出後2週間後を目処に、採点をして返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 毎回、レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	発達臨床演習B【演習】		開講時期	後期
担当教員	榊(祐)・針塚(進)		単位	2
授業の目的と概要	人の生涯発達、それぞれの発達段階における特徴をしめすと同時に、それに関連した様々な問題も生じる。現代の日本社会では、少子高齢化や環境の変化がみられ、人間関係や家族にも影響を与えている。このような現状を理解し、具体的にどのような問題が生じ、支援が行なわれているのか検討する。最終的に、地域における支援策について、実践計画を立てることを目的とする。生涯発達の特徴や問題について再確認し、現代社会における臨床的実践活動について検証する。それらの活動を通して、生涯発達に応じたよりよい支援のあり方を具体的に説明できる力を身につける。この授業は自ら問題を設定し、解決策を見つけることを目的とするアクティブラーニング型の授業である。			
到達目標	①現代社会における生涯発達に関する問題や支援の現状について調べることが出来る ②地域社会（福岡やその近辺）で実際にどのような支援が行なわれているのか調べ、問題点や課題を具体的に説明することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の構成、進め方について	授業のイントロダクションについて復習		
第2回	文献検索、論文収集：文献検索や論文収集の方法についての確認	文献検索		
第3回	研究計画作成：テーマの選択とグループ分け、発表までの計画作成	発表にについての研究計画作成		
第4回	文献ト講読・発表①	予習（発表予定のトピックの講読）		
第5回	文献講読・発表②	予習（発表予定のトピックの講読）		
第6回	文献講読・発表③	予習（発表予定のトピックの講読）		
第7回	文献講読・発表④	予習（発表予定のトピックの講読）		
第8回	文献講読・発表⑤	復習（発表予定のトピックの講読）		
第9回	支援プロジェクト作成① 問題点、課題の整理	プロジェクトに関するテーマ、問題点、課題の整理		
第10回	支援プロジェクト作成② 実践例や現状の整理	プロジェクトに関する実践例や現状の整理		
第11回	支援プロジェクト作成③ 発表資料の作成	発表資料の作成		
第12回	発表・討論① 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ①）	支援プロジェクトに関する振り返り		
第13回	発表・討論② 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ②）	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第14回	発表・討論③ 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ③）	支援プロジェクトに関する振り返り		
第15回	まとめ：各研究テーマの達成度や課題について検討	達成度や今後の課題についての振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表した内容についてレポートにまとめる。			
小テスト等	-			
成果発表	40％ 選択したテーマについての発表			
受講態度他	10％ 発表に対する質疑応答への態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。			
教科書	適宜紹介			
指定図書	指定なし			
参考図書	指定なし			
オフィスアワー	各教員の他科目シラバスを確認	メールアドレス	各教員の他科目シラバスを確認	

授業科目	病弱教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	大轟 香・猪狩 恵美子		単位	2
授業の目的と概要	特別支援学校学習指導要領をふまえて病弱者を指導するための教育課程と、それぞれの場で行われている指導の特徴を把握し、病弱児のかかえる心理的特性や症状をふまえた指導内容・方法を身につける。 また、自立活動に向け、専門機関と連携や情報機器の活用等も考慮した個別の指導計画や支援計画の重要性を理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱児の心理的・医学的特徴について説明できる。 ・病弱児の教育について説明できる。 ・病弱児の指導や支援のあり方について述べるができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <hr/> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	病弱児に対する基本的理解について (大轟)	ショートレポート①作成		
第2回	病弱教育の現状について (大轟)	ショートレポート①作成		
第3回	病弱児における教育課程概論 (歴史を含む) (猪狩)	ショートレポート②作成		
第4回	病弱児の学習特性と教育課程 (猪狩)	ショートレポート②作成		
第5回	病弱児における教育課程及び指導法 (幼稚園部) (猪狩)	ショートレポート②作成		
第6回	病弱児における教育課程及び指導法 (小学部) (猪狩)	ショートレポート②作成		
第7回	病弱児における教育課程及び指導法 (中等部・高等部) (猪狩)	ショートレポート③作成		
第8回	教科指導 (1) 各教科 (猪狩)	ショートレポート③作成		
第9回	教科指導 (2) 学習の工夫 (猪狩)	ショートレポート③作成		
第10回	教科指導 (3) 自立活動との関連から (猪狩)	ショートレポート③作成		
第11回	院内学級における教育課程及び指導法 (1) 学習指導 (猪狩)	ショートレポート④作成		
第12回	院内学級における教育課程及び指導法 (2) 生活指導 (猪狩)	ショートレポート④作成		
第13回	病弱児の心理特性と教育 (猪狩)	ショートレポート④作成		
第14回	交流および協同学習について (院内交流・学校間交流) (猪狩)	ショートレポート④作成		
第15回	病弱教育の現代的な課題について (猪狩)	最終レポート作成		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート60%、最終レポート40%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布しますので、ファイルを準備してください。 授業後に課題を出します。 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』は他の授業でも使用します。			
教科書	全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どもガイドブック』 ジアース教育新社 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編、各教科編等、自立活動編』			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	授業後	メールアドレス		

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】	開講時期	前期
担当教員	大霧 香	単位	2
授業の目的と概要	特別支援学校や特別支援学級に在籍する幼児、児童又は生徒の心理や疾病等についての基礎的な知識を学ぶことで、現場で対応する力を身につける。病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学ぶ。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学ぶ。		
到達目標	1. 病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 2. 病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 3. 病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は特別支援学校課程の専門科目です。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 病弱者について		授業内容の復習（病弱者の定義）	
第2回 極低出生体重児の心理・生理・病理（1）	極低出生体重児とは	授業内容の復習（極低出生体重児について）	
第3回 極低出生体重児の心理・生理・病理（2）	ハイリスク児への支援	ミニレポート①（資料を読んで）	
第4回 腎疾患の心理・生理・病理（1）	腎疾患とは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第5回 腎疾患の心理・生理・病理（2）	腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第6回 心疾患の心理・生理・病理	心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第7回 小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理		ミニレポート②（慢性疾患について）授業内容の復習	
第8回 てんかんの心理・生理・病理（1）	てんかんとは	ミニレポート③（てんかんについて）作成 授業内容の復習	
第9回 てんかんの心理・生理・病理（2）	発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート③（てんかんについて）作成 授業内容の復習	
第10回 小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）		ミニレポート④（がん、アレルギー）について 授業内容の復習	
第11回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1）	ぜんそくを中心に	ミニレポート④（がん、アレルギーについて） 授業内容の復習	
第12回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2）	食物アレルギーを中心に	ミニレポート④（がん、アレルギーについて） 授業内容の復習	
第13回 病弱者の家族への支援（1）	家族の思い	ミニレポート⑤（資料を読んで）	
第14回 病弱者の家族への支援（2）	家族への支援	ミニレポート⑤（資料を読んで）	
第15回 ライフイベントと発達まとめ		ミニレポート⑤（資料を読んで）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	ミニレポート5回 85％ 課題提出 15％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	受講態度を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に授業計画に書かれている疾患について事前学習をしておいてください。		
教科書	使用しない		
指定図書	特になし		
参考図書	宮本信也・土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂 小野次朗・西牧謙吾・榎原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱者の心理・生理・病理』 ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	月曜 昼休み・5限	メールアドレス	

授業科目	仏教福祉【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活実態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。			
到達目標	1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。 2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。 3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 心 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	感想カードを提出		
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義	感想カードを提出		
第3回	仏教と福祉はどう結びつくのか	感想カードを提出		
第4回	親鸞の思想と福祉の関係性について	感想カードを提出		
第5回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ	感想カードを提出		
第6回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ	感想カードを提出		
第7回	平安時代における穢れの意識の展開	感想カードを提出		
第8回	中世被差別民の形成と仏教	感想カードを提出		
第9回	鎌倉仏教と救済事業	感想カードを提出		
第10回	幕藩体制下での仏教救済事業	感想カードを提出		
第11回	明治維新と仏教側の対応	感想カードを提出		
第12回	仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業	感想カードを提出		
第13回	戦時厚生事業と仏教	感想カードを提出		
第14回	戦後社会福祉の展開と仏教	感想カードを提出		
第15回	まとめ	感想カードを提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ 受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	保育原理【講義】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。 2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。 3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。 4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。 5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。 6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。 			
この授業が目的として関与するDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	保育とは何か～理念と概念について		教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する	
第2回	保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン		教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。	
第3回	保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史		教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。	
第4回	子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か		教科書第2章を読む。	
第5回	子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点		教科書第2章および資料を読んで整理する。	
第6回	保育の方法①生活と遊びを通して行うとは		教科書第4章を読む。	
第7回	保育の方法②遊びとは何か		教科書第4章をまとめる。	
第8回	保育の内容① 養護とは何か		教科書第3章を読む。	
第9回	保育の内容② 5領域の考え方		教科書第3章をまとめる	
第10回	保育の計画と評価		教科書第5章を読む。	
第11回	多様な子どもの理解と保育		教科書第10章を読む。	
	保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律		教科書第12章を読む	
	保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準		保育資料集からまとめる	
	保育者の専門性と資質向上		教科書第8章を読む	
	保育とは何か・再考		保育について考えがどのように変化してきたかについてまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末テスト 基本的事項についての知識を問う			
レポート	30％ 保育とは何か 講義受講前と受講後の変化について考える			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 意見発表等をもとに講義に対する参加意欲を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと ・社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。 ・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。 			
教科書	汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい			
指定図書	宍戸健夫(1988) 「日本の幼児保育一昭和保育思想史〈上〉〈下〉(青木教育叢書)」 青木書店			
参考図書	清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス		

授業科目	法律学(国際法を含む)【講義】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。			
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 心(1)-① 自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼(2)-④ 社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼(2)-⑤ 人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会において法が果たしている役割	配付資料を見直して復習する。		
第2回	裁判による権利実現・被害回復とは	配付資料を見直して復習する。		
第3回	刑法	配付資料を見直して復習する。		
第4回	刑事訴訟法	配付資料を見直して復習する。		
第5回	民法①(財産法)	配付資料を見直して復習する。		
第6回	民法②(家族法)	配付資料を見直して復習する。		
第7回	商法	配付資料を見直して復習する。		
第8回	憲法	配付資料を見直して復習する。		
第9回	労働法	配付資料を見直して復習する。		
第10回	社会保障法	配付資料を見直して復習する。		
第11回	国際法(国際法はどのような形で存在するか)	配付資料を見直して復習する。		
第12回	国際法(国際紛争の解決)	配付資料を見直して復習する。		
第13回	国際法(国家管轄権)	配付資料を見直して復習する。		
第14回	国際法(国際人権法)	配付資料を見直して復習する。		
第15回	国際法(戦争と国際法)	配付資料を見直して復習する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり(100%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし(資料を配付します)			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学[第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法[第2版]』弘文堂			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、「人間理解」と「人間支援」に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を、臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的概念や理論について理解し、正しく説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性を理解し、その視点を身につけることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。 2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。 3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。 4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>心 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 幼 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：カウンセリング概論、心理アセスメントⅠ・Ⅱ、人本心理学、健康・医療心理学</p>			
授業計画	この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」		記載どおりの実践的教育を行います。	
第1回	臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助		「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する	
第2回	臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義		「コラボレーション」の意味と意義について整理する 小レポート①をまとめる	
第3回	臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング		最近見た夢を記録し、夢の意味するものについて考える	
第4回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き		診断とアセスメントの意味の違いについて調べる	
第5回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解		授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成	
第6回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解		小レポート②(講義の第3回～第6回の内容に関する課題)をまとめる	
第7回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状		正常と異常の判断基準について復習する	
第8回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助		統合失調症の症状について調べる	
第9回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント		うつ病の症状について調べる	
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント		心身症の種類と症状について調べる	
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント		小レポート③(講義の第7回～第11回の内容に関する課題)をまとめる	
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待		ADHDとアスペルガー症候群について調べる	
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざまな		児童期・青年期の発達課題について調べる	
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題		小レポート④(講義の第12回～第14回の内容に関する課題)をまとめる	
第15回	総括 これまでの講義の重要ポイントのまとめ		配布資料、ノート、返却された小レポートの整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験(60点満点)			
レポート	40% 4回の小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 小レポートは提出後、2週間後を目処に、採点した結果を返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語や離席については、適宜、注意をいたします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、講義内容を自己の体験や観察と照らし合わせながら受講して下さい。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 毎回レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄『心理療法学』岩波書店			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	知的障がい・発達援助の技法【講義】		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。 さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。			
到達目標	1. 心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。 2. さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。 3. 障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、内容について		
第2回	障がいの種類と特徴	障がいを持ちながら生活をするとはどのようなことか考えをまとめる		
第3回	障がい児者のアセスメントの理論	対象者を理解するアセスメントについての復習		
第4回	障がい児者のアセスメントん実際	対象者を理解するアセスメントについての復習		
第5回	応用行動分析 理論① 行動のとらえ方	復習：“気になる行動”を行動レベルで書き起こす		
第6回	応用行動分析 理論② ターゲットのとらえ方	復習：“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す		
第7回	応用行動分析 理論③ 行動の強化子	復習：“気になる行動”の強化子について復習する		
第8回	応用行動分析 実際① 指導法	復習：応用行動分析を使って、指導案を作成する		
第9回	応用行動分析 実際② 指導案の作成	レポート作成：自分の気になる行動の改善計画案の作成		
第10回	感情のコントロール ①感情の自己理解	自分の感じ方、感情について感じ、言葉にまとめてみる		
第11回	感情のコントロール ②感情の理解と支援	レポート作成：感情のコントロールに関する理解についてのレポート作成		
第12回	リラクセーション	レポート作成：リラクセーション体験についてのレポートをまとめる。		
第13回	TEACCHプログラム	復習：TEACCHプログラムの概要について振り返り		
第14回	構造化① 理論	復習：構造化の種類、具体的な方法について復習する		
第15回	構造化② 実際	レポート作成：日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 授業中に指示します テーマごとに4～5回レポート課題を出します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	臨床心理実習【実習】	開講時期	前期
担当教員	酒井 均・森田 理香	単 位	1
授業の目的と概要	<p>心理職が働くさまざまな現場を見学し、場合によっては実際にその業務に参加し、心理職の役割と現場の状況を理解し、自分の将来的な展望を持つことができる。</p> <p>さまざまな心理職がはたらく現場（児童相談所、保健所、病院、児童施設、療育施設など）を見学したり、心理職にインタビューしたりする。場合によってはその業務の一部に参加をする。その後、それらをレポートにまとめ発表する。</p>		
到達目標	<p>心理職の役割と現場の状況を説明できる。</p> <p>将来的な展望をきちんと説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>科目担当者の中には心理相談・特別支援教育の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション	見学先調査	
第2回	見学	報告書まとめ	
第3回	見学	報告書まとめ	
第4回	見学	報告書まとめ	
第5回	見学	報告書まとめ	
第6回	見学	報告書まとめ	
第7回	見学	報告書まとめ	
第8回	中間報告会	見学先調査	
第9回	見学	報告書まとめ	
第10回	見学	報告書まとめ	
第11回	見学	報告書まとめ	
第12回	見学	報告書まとめ	
第13回	見学	報告書まとめ	
第14回	見学	報告書まとめ	
第15回	最終報告会	最終レポート	
成績評価	割 合 (%) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 など		
定期試験	なし		
レポート	70%		
小テスト等	なし		
成果発表	20%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は将来心理専門職に就職するという固い意志のある学生のために開講しています。興味本位では受講できません。また、見学が中心のため時間外の授業がほとんどになります。しかも、見学先の状況によっては、いつ見学になるかもわかりません。このため筑女ネット、掲示等のチェックは怠らないように注意してください。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	